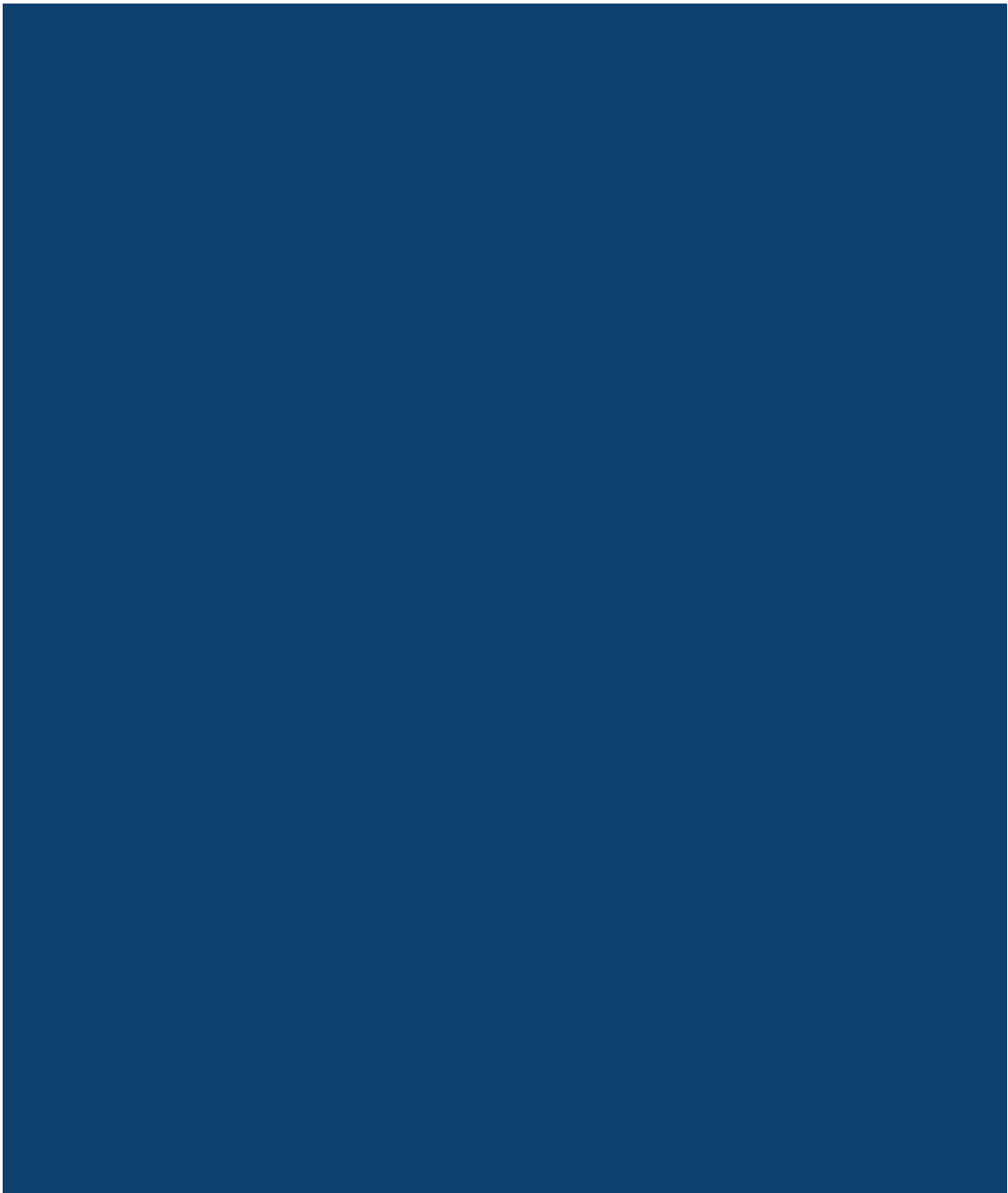




2022年10月25日版

ATEN ジャパン株式会社 技術部 技術サポート課

EcoDC セットアップ簡易ガイド



目次

EcoDC セットアップ簡易ガイド	1
【必ずお読みください】 ご注意	3
改定履歴	5
事前検証	6
障害発生時・故障に備えて	7
ecoDC とは何か?	8
ecoDC の仕組み	9
先代監視ソフトウェア・Eco Sensor との違い	9
ハードウェア要件	10
サーバー最小要件	10
クライアント OS に ecoDC をインストールするのは可能か?	10
クライアント(リモートアクセス端末) 最小要件	11
ecoDC をインストールする	12
事前準備 : Java version8 をインストールする	12
ecoDC をダウンロードする	13
ecoDC をインストールする	14
評価用インストールシリアルナンバー	15
ecoDC を起動する	18
リモート端末からアクセスする	19
初期ログイン ID / password	19
パスワードを紛失してしまった場合	20
自動ログアウト設定を無効にする	20
設定の流れ	22
デバイスを登録する	22
ラックのレイアウトを作成する	25
レイアウト内にラックデータを作成する	25
登録したラックに PDU と紐づける	28
PDU をグループ登録する	29
デバイスをリモートから電源 ON/OFF する	31
スケジュール機能を使って指定した時間に電源制御をする	32
免責事項	34

【必ずお読みください】 ご注意

- 当ガイドは ecoDC / v1.2.113 をベースにした内容となります
- 当ガイドは「ecoDC を最低限セットアップして使用開始するまでのガイド」として作成しています
- 手順の詳細を確認する場合は、製品マニュアルをご参照ください

- 弊社製の PDU 製品やマニュアルは、予告なく仕様変更などが行われます
- 弊社の技術サポートの提供は最新版のファームウェア/ソフトウェアでのご利用が前提条件です。過去のバージョンで発生している不具合に対しては、設定方法・利用方法の支援提案を行うことはございますが、問題解決を確約するものではないことをご理解いただきますようお願い申し上げます
- 過去バージョンの ecoDC を使用している発生している問題・障害に対してはまず最新版へアップグレードしてからご確認ください
- 同様に既存のデバイスを増設する時も必ず、デバイスがすべて最新バージョンにアップグレードされているかご確認ください

- 使用する ecoDC と PDU デバイスが最新バージョン同士でない組み合わせでは、認識・検出されない、制御できないなど予期しない不具合の原因となることがあります。特に ecoDC が古い場合、最新の PDU デバイスを認識できないことがございます。そのため構築・増設する前には必ず ecoDC と PDU デバイス両方が最新バージョンに更新されているか確認してから、構築してください
- 仕様変更によって、最新のハードウェアでは過去バージョンのファームウェアに書き換え出来ない場合がございます
- 強制的にファームウェアをダウングレードした場合に動作しないおそれがございます。弊社では同製品内の過去互換性についてはサポート外のため、ご理解いただきますようお願い申し上げます
- ご利用から 3 年以上経過した製品については、仕様変更に伴い最新のファームウェアはご利用いただけない可能性がございます。保証期間を満了した旧バージョンのハードウェアに対し、現行バージョン同等に使用するための技術サポートは提供できません。
- 保証期間が満了したハードウェアで相性問題などの不具合が発生した場合、使用しているバージョンに近いバージョンへアップグレードできるかお試しください。(例・v1.1.102 を使用していれば v1.1.103 に上げられるかお試しください)その後、アップグレードできるバージョンまで更新し、不具合が解消できるかお試しください

- 改善が見られなかった場合は、製品リプレースでの解決による方法をご検討いただきますようお願い申し上げます。
- 製品のファームウェアは製造時点では最新バージョンにて製造されていますが、物流などの都合によりさらに新しいバージョンが公開されていることがあります。利用の際は最新バージョンにアップグレードしてご利用ください
- 本製品は、すべての接続機器、ネットワーク機器の動作を保証するものではありません。ご使用の際には、事前の段階で十分に評価いただき、お客様の責任においてご利用頂きますようお願い致します。最終システムに対しても本機器の機能が満足するかどうかを事前に評価などにてご確認頂きますようお願い致します
- 各 OS や機器の IP アドレスのセットアップ、VPN を使用したリモートからの接続方法などについては割愛します。弊社製品であれば製品マニュアルをご確認いただき、他社製品については各ベンダーへお問合せください

改定履歴

- 2022年10月25日：初版公開

事前検証

- 弊社製品はマニュアルに記載されている各 OS やミドルウェアに応じた製品づくりをしていますが、いかなる環境での動作を保証するものではありません。
ご使用の際には事前の段階で十分に評価していただき、お客様の責任においてご利用頂きますようお願い致します。
- 各 KVM 製品のマニュアルに記載されている動作対象 OS での基本的な動作の確認を実施しておりますが、各ビルドおよびバージョンと、それらにて提供されるドライバーの完全な動作を保証するものではありません。
又お客様のご使用になるソフトウェアとの相性および完全な動作を保証するものではありません。事前に十分な確認評価をしていただきますようお願いします。
- 最終システムに対して本機器の機能が満足するかどうかを事前に評価してご導入いただきますようお願い申し上げます。
- 実機検証する前の段階で、弊社営業でも構成相談を承れます。
詳細につきましては、弊社お問い合わせフォームをご利用の上、弊社営業までお気軽にお問い合わせください。
<https://atenjapan.satori.site/contactus>
- 営業までご相談をいただく場合に具体的な構成図などをご提示いただくことで、より早い構成提案なども可能になります。

お急ぎの場合は、弊社営業窓口 03-5615-5810 までご連絡ください。

受付時間：午前 9 時～午後 6 時(土・日・祝日・お盆・正月期間を除く)

障害発生時・故障に備えて

- USB ライセンスキーの故障に関しては、メーカー保証(3年)はセンドバック保守となります
- 修理の受付には製品のシリアル番号が必須となります。本体裏面のシール部分にバーコード下にある英数字がシリアル番号となります
- 修理お問い合わせ時にシリアル番号をご提示いただくことで保証期間内の判定と、有償オプションに加入しているかを照合します
- 本体に養生用シールなどが貼られて見えない、シールがはがされている、汚損などによってシリアル番号をご提示頂けないなどの場合は、有償での修理対応となります
- 保証期間内は無償修理となりますが、修理品の送料につきましては相互元払いとなります

ecoDC とは何か?

- ecoDC はイーサネット (SNMP)を通じて ATEN 製 PDU を管理、制御することに特化したソフトウェアです。
- 次のような「PDU を遠隔管理したい」という用途に対して ecoDC は実現できます
 - 監視する PDU 本体は ATEN 製のみで、ある程度の使用別途も限られている。そのためだけに SNMP 監視ソフトウェアや MIB ファイルを用意するのは不便。簡単に統合管理環境を構築したい。
 - 遠隔地に点在する ATEN 製 PDU を同じタイミングで同時に電源 ON/OFF 制御したい
 - 遠隔地に点在する ATEN 製 PDU それぞれに記録されているログデータを 1 箇所のサーバーでまとめて収集したい
 - 遠隔地に点在する ATEN 製 PDU の本体ファームウェアを最新バージョンへメンテナンス時に一括でアップグレードしたい
- ecoDC は、Windows または対応 Linux OS 環境ではサービスとして動作します
- インストール時に、インストール専用ライセンスキーが必要となります。その後、50 台以上の PDU を監視する場合は、有償版のライセンスを利用して機能制限解除を行ってください。
- ecoDC には無償版と有償版があります。インストールプログラムは同一で、USB ライセンスキーで制限が解除されます。
 - 無償版 : USB キーの認証不要で利用できます。登録できる PDU の台数が 50 台までとなります。
 - 有償版 : USB キーの認証を必須とします。USB キーには次のデータが収録されています。
- ecoDC は過去の統合管理ソフトウェア「eco Sensor」とは直接的な互換性が無いため、バックアップデータそのままではご利用いただけません。データコンバートによる環境移行が必要となるためご注意ください。
- ecoDC は最大で 3000 台までの PDU の監視に対応しています。リモートアクセスの接続数や PDU の監視内容によってサーバーの要求スペックは異なるため、ご注意ください。

ecoDC の仕組み

ecoDC は Windows または Linux にインストールした後、サービスとして実行されます。Windows であれば、インストール後に自動的にサービスとして登録され、自動的にサービスとして起動されるようになっていきます。自動的に起動できなかつた場合はタスクマネージャーからサービス管理を開き、手動で実行することで起動できるようになっております。

ecoDC はデバイス、リモート端末からのアクセスを必須とするため、OS やネットワーク機器のファイヤーウォールの解放設定が必須となります。起動前に正しく導通されているかご確認ください。

ecoDC は対応 PDU 製品に対してのみ、SNMP で接続して各機器の監視・制御する機能となります。他社の SNMP 対応デバイスは ecoDC にデバイスとして登録できません。

先代監視ソフトウェア・Eco Sensor との違い

先代の PDU 監視ソフトウェア「Eco Sensor」はスタンドアロンソフトウェアのため、リモートアクセスに対応していませんでした。

ecoDC はそれまで実現できなかったリモートアクセスと、大規模な監視体制に対応できるようにサービスとして動作するソフトウェアとして再開発されました。

ecoDC は Eco Sensor との直接的な互換性はありません。 利用する場合は eco Sensor のバックアップデータを ecoDC のデータコンバータにて変換し、ecoDC にデータインポートする必要があります。

ハードウェア要件

サーバー最小要件

CPU :	プログラム動作に対して最低クアッドコア以上を割り当てられること 動作周波数 2.5Ghz 以上 凡例: Intel Xeon E-2324G 以上
メモリ :	プログラム動作に対して最低 8GB 以上を割り当てられること
ストレージ :	1TB 以上※1
ネットワーク :	1GbE 以上であること
解像度	1400x900 以上※2
OS :	Microsoft 社がメインストリームサポートを行っているサーバーOS

※1 本体ログをサーバーに保存する場合、必要容量は変動します

※2 サーバーのブラウザから管理画面にアクセスする場合

クライアント OS に ecoDC をインストールするのは可能か？

以下の点から**可能だが非推奨**となります。

- ・ ecoDC は 24 時間 365 日連続稼働を想定しているが、デスクトップパソコンなどは 24 時間稼働するハードウェアとして連続稼働を想定していないため
- ・ 特にノート PC 等は省エネ機能などによって機能停止を自動的に実行されて予期しない挙動の原因となるため
- ・ Windows10 などはアップデートなどで OS 再起動することを前提に設計されており、突然のアクセス不可になる障害の原因となるため
- ・ Windows10 などのクライアント OS はライセンス制限にて、20 台を超える同時接続をした場合は、突然通信不能になります。その状態からの復旧・回避方法はライセンス条項に抵触するため Microsoft 社から提供されません

クライアント(リモートアクセス端末) 最小要件

CPU :	Intel Core i5-10400 以上
メモリ :	最低 8GB 以上
ネットワーク :	1GbE 以上であること
解像度	1400x900 以上※1
OS :	Microsoft windows8 以降(メインストリームサポート対応中 OS)
ブラウザ :	Microsoft Edge(Chromium)、Mozilla Firefox、Google Chrome

※1 1400x900 でも最低限の閲覧はできますが、解像度 1920x1080 以上のモニターで接続されることを推奨します。

ecoDC をインストールする

事前準備 : Java version8 をインストールする

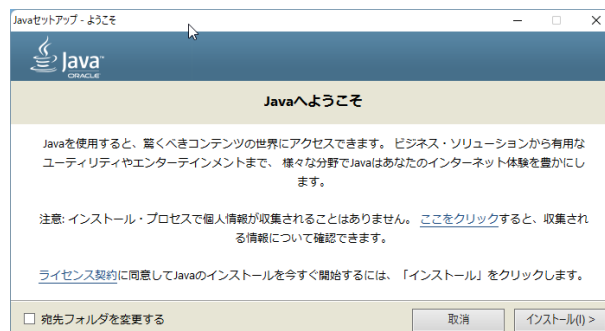
ecoDC は、「Java SE Runtime Environment 8u202」（以降 Java JRE）を利用して動作します。そのため、ecoDC をインストールする前に、Windows/Linux それぞれの OS 版 Java JRE を入手してからインストールします。

(Oracle 社アーカイブページ)

<https://www.oracle.com/jp/java/technologies/javase/javase8-archive-downloads.html>

以下は Windows サーバー環境で「jre-8u202-windows-x64.exe」のインストール例を紹介します。まずはプログラムを管理者権限で実行します。

「インストール」をクリックします。



「OK」をクリックします



しばらくすると、インストールが完了したとメッセージが表示されます。「閉じる」をクリックします。



Java のインストールが完了したら OS を再起動させます。
次は ecoDC のインストールプログラムをダウンロードして、インストールします。

※ Linux(CentOS)環境の場合

windows のインストール方法同様に Oracle 社からサイトからバイナリをダウンロードしてインストールを行ってください。(yum に Oracle Java SE Runtime Environment が公開されていないため)

またインストールするバイナリは `chmod +x` で実行権限を設定してから、管理者権限でインストールします。

ecoDC をダウンロードする

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/eco DC>

製品ページの「サポートとダウンロード」から、「アップグレードソフトウェア (Windows)」に公開されている最新版のプログラムをダウンロードします。Redhat または CentOS 環境であれば「アップグレードソフトウェア (Linux)」から同様にダウンロードをします。

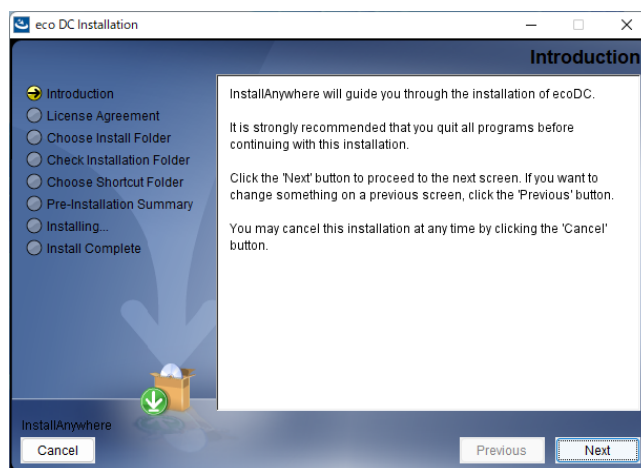
アップグレードソフトウェア(Windows)				
Windows	Upgrade Software	v1.2.113	2022-07-12	ecoDC-for_windows_v1.2.113.zip
Windows	Upgrade Software	v1.2.112	2021-12-30	ecoDC-for_windows_v1.2.112.zip
Windows	Upgrade Software	v1.1.103	2020-11-02	ecoDC-for_windows_v1.1.103.zip

ecoDC をインストールする

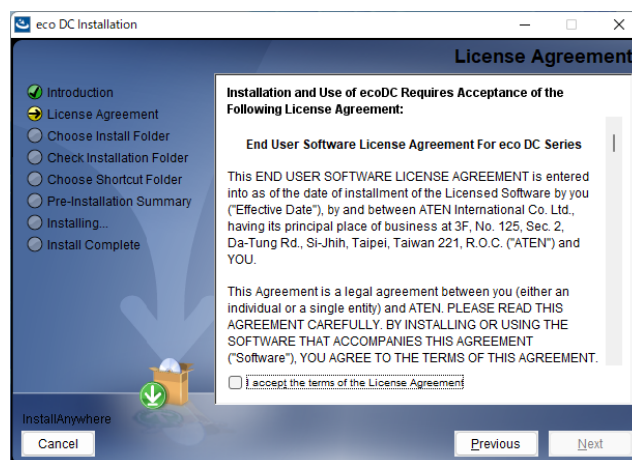


2022年10月時点で最新となる「ecoDC-ForWindows_V1.2.113.exe」を管理者権限で実行します。

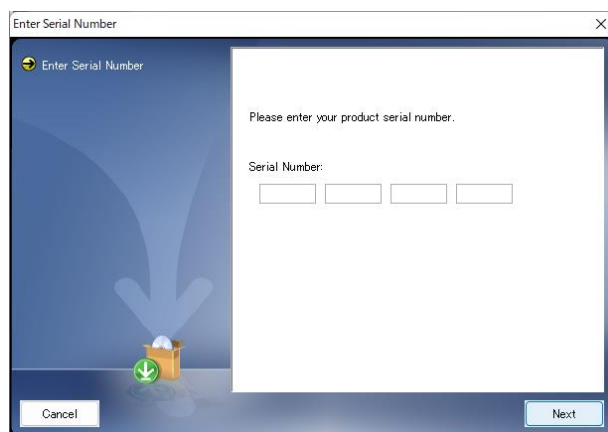
インストール準備が完了したら、「Next」をクリックします。



「I agree..」をクリックしてチェックを入れたら、「Next」をクリックします。



インストール用シリアルナンバーを入力します。

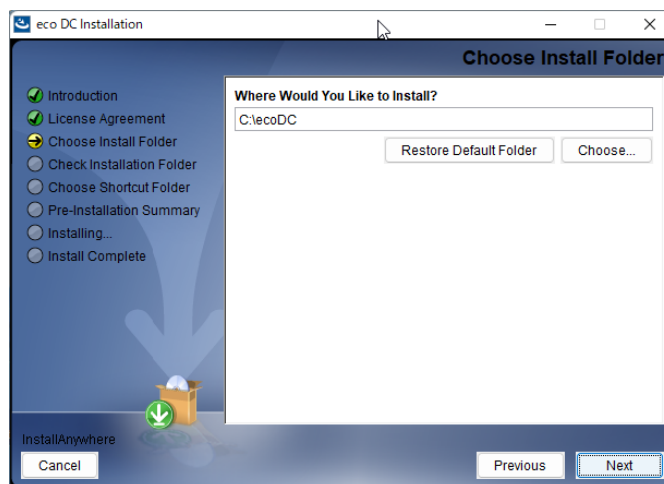


評価用インストールシリアルナンバー

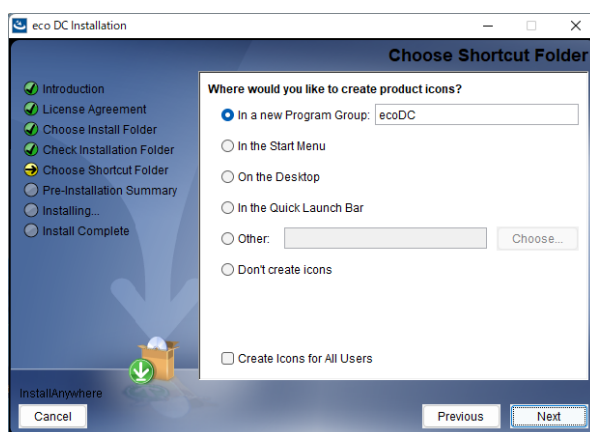
4WT6D-FV8XS-A1W7C-26D4E

これは評価用のインストールシリアルナンバーとなります。シリアルナンバーを入力したら、「Next」をクリックします。

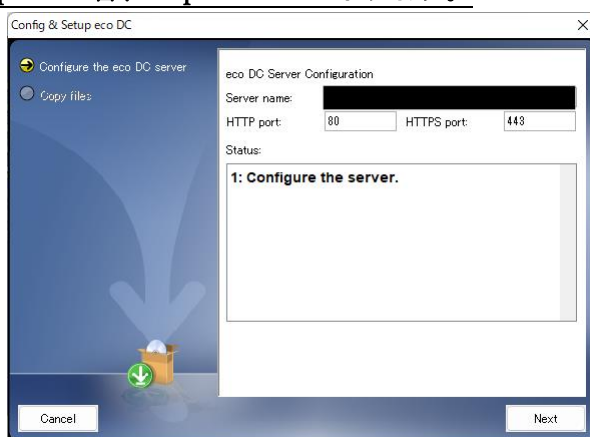
インストール先を確認します。



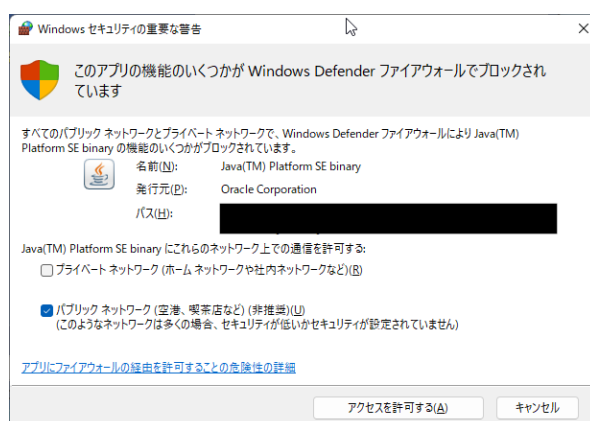
設定を確認し、「Next」をクリックします。



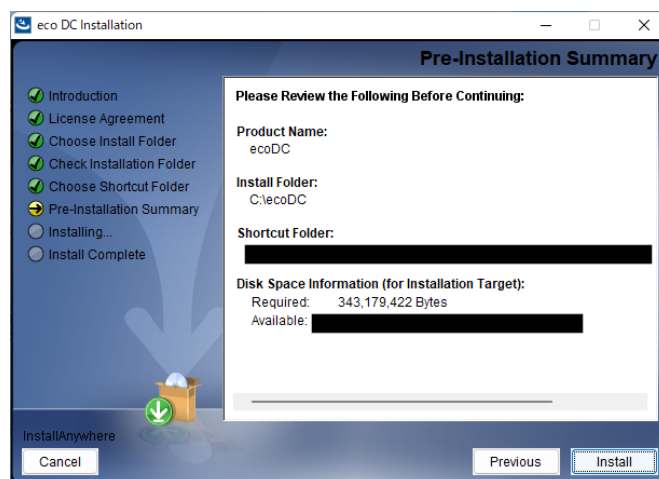
ecoDC でリモートアクセスにて受け付けるポートを確認します。
標準設定では、http は 80 番、https は 443 となります。



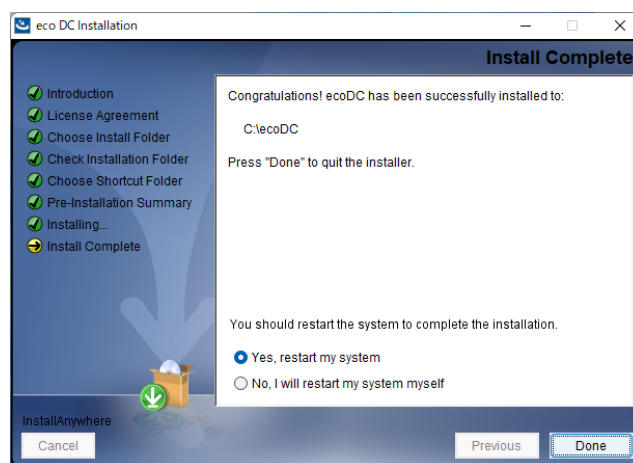
インストールする環境によっては、ファイヤーウォールでブロックされていることを通知されます。表示されたら「アクセスを許可する」をクリックします。



インストールする設定を確認したら、「Install」をクリックします。



インストールが完了したら、OS 再起動を要求されます。「Done」をクリックして OS 再起動が完了したら ecoDC はインストール完了です。



※ 参考

CentOS7 を例に、ecoDC は以下のディレクトリにインストールされます。

root/opt/ecoDC/

Linux 版もインストール画面は、インターフェイス完了後の再起動が不要なことは除き、ほぼ同じ画面となりますため説明は割愛します。

ecoDC を起動する

インストールが完了すると、ecoDC はサービスとしてインストールされます。
Windows の場合は、プロジェクトマネージャにて登録されているかを確認します。



サービスは自動起動に設定されていますので、起動するまで待ちます。

この時、サーバーのネットワークは必ずオンラインであることを確認してください。
LAN ケーブルが外れていたり、NIC が無効になっているとサービスは利用不能な状態と判断し、自動的に ecoDC サービスを終了します。

自動起動では、サーバーの連続稼働期間や規模によってログデータが蓄積するため、サービスが立ち上がるまでの時間が初回セットアップ時よりも掛かることがあります。

※ Linux 版

正しくサービスが登録されていれば `systemctl list-units --type=service all` にて、「ecoDCservice.service」が列挙されるようになります。手動で起動する場合は `systemctl enable ecoDCservice.service` で実行してください。

リモート端末からアクセスする

サーバーのファイヤーウォールやネットワークの設定が正しいことを確認してから ecoDC をインストールしたサーバーへアクセスします。

ecoDC は初期設定でセキュリティが掛かっていないという理由にて、ブラウザでアクセスすると次のような警告画面が表示されます。これは正しい挙動です。

「詳細を表示する」をクリックしたら「xxx.xxx.xxx.xxx に進む(安全ではありません)」をクリックしてログイン画面に進みます。



初期ログイン ID / password

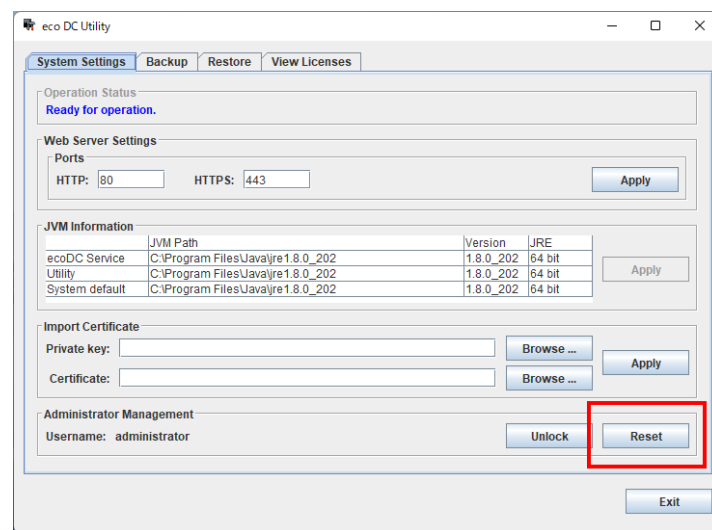
初回ログイン時は、セキュリティ対策のためパスワード変更が求められます。パスワードの入力間違いがないように、設定したパスワードの控えを残すことを推奨します。

初期ログイン ID:	administrator
初期パスワード:	password

パスワードを紛失してしまった場合

もし、パスワードを紛失してしまった場合でかつ、Super Administrator 権限のアカウントが無い場合、復旧方法は ecoDC Utility から初期化をします。

スタートボタンから「ecoDC」を選択し、フォルダ内の ecoDC Utility を起動します。そして「System Setting > Administrator Management」の「Reset」で初期パスワードに強制的に変更します。



もし、リモートユーザーのパスワード入力間違いによってアカウントロックが掛けられた状態であれば Reset の隣にある「Unlock」をクリックするとアカウントロックを強制的に解除できます。

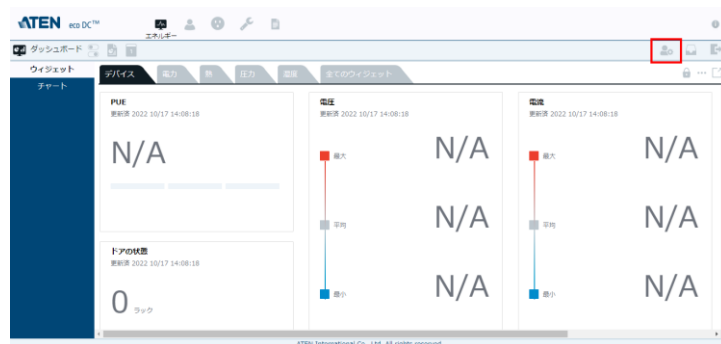
※ Linux 版の場合

「root/opt/ecoDC/Runnable/」に ecoDC_Utility がインストールされています。

自動ログアウト設定を無効にする

初期設定では、無操作で3分経過すると自動的に管理画面からログアウトします。次の手順で自動的にログアウトする機能を無効にします。

ダッシュボード画面右上にある「」をクリックします。



「個人設定 > アイドルタイムアウト」の設定を0分と設定し、「保存」をクリックします。これでネットワーク障害による接続断を除き、リモートアクセスはecoDCから自動的にログアウトしないようになります。

The screenshot shows the 'ユーザー環境設定 (administrator)' dialog box. The '個人設定' section is expanded, and the 'アイドルタイムアウト(0-30)' field is set to '3' minutes, highlighted with a red box. Other settings include '最大同時接続数(1-100)' set to 100, 'エネルギータブの優先ページ' set to 'ダッシュボード', and password fields for '古いパスワード', '新規パスワード', and '確認用パスワード'. The 'パスワードをリセット' checkbox is unchecked. At the bottom, there are '破棄' and '保存' buttons.


設定の流れ

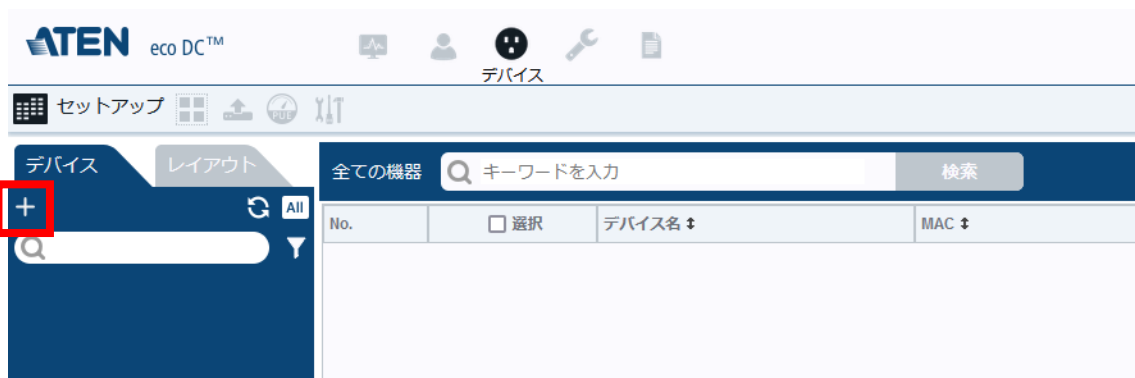
ecoDC を設定するには、次の流れでセットアップします

1. デバイスを登録する
2. ラックを登録する
3. グループ作成し、登録する

この操作の流れは管理する PDU が 1 台でも同じ流れでセットアップします。

デバイスを登録する

管理画面上タブの「デバイス > セットアップ」を選択し、左ペインの「デバイス」にある「」をクリックします。



弊社製 PDU の IP アドレス、SNMP の設定を入力して登録します。

ネットワーク内でデバイスを確認されると自動的に型番が検出されるので、登録します。

※ 参考

ATEN 製 PDU の初期 IP アドレスは、192.168.0.60/255.255.255.0 となっています。

例えば、192.168.0.xxx という IP アドレスのセグメントに PDU を設置している場合は

開始 IP(v4) :	192.168.0.1
検索番号 :	255

と入力して「次へ」をクリックして検索すると「192.168.0.1 ~ 192.168.0.255」にある PDU が、デフォルト SNMP エージェント設定にて利用できる PDU が存在するか ecoDC は探します。

新規デバイス

Step 1 Search PDU Devices Step 2 Select and Add Devices

PDUタイプ: ATEN PDU

開始IP(v4): 192.168.0.1

検索番号(1 ~ 1024): 60

デフォルトSNMPエージェント設定

ポート(1 - 65535): 161

タイムアウト(100 - 5000) ミリ秒: 500

再試行(1 - 5): 3

SNMPバージョン: v2c

コミュニティを指定: administrator

閉じる 次へ

「次へ」をクリックしても検索結果が出てこないことがあります。この場合は、PDU の IP アドレスを「検索番号」の項目に「192.168.0.x」、検索番号は「1」入力すると直接問い合わせして利用できるか問い合わせをします。

新規デバイス

Step 1 Search PDU Devices Step 2 Select and Add Devices

全ての機器

No.	<input checked="" type="checkbox"/> 選択	IP/Domain	モデル	ファームウェアバージョン	デバイス名	ステーションID
1	<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.0.71	PE6208A	2.3.228	PE6208A	0

追加

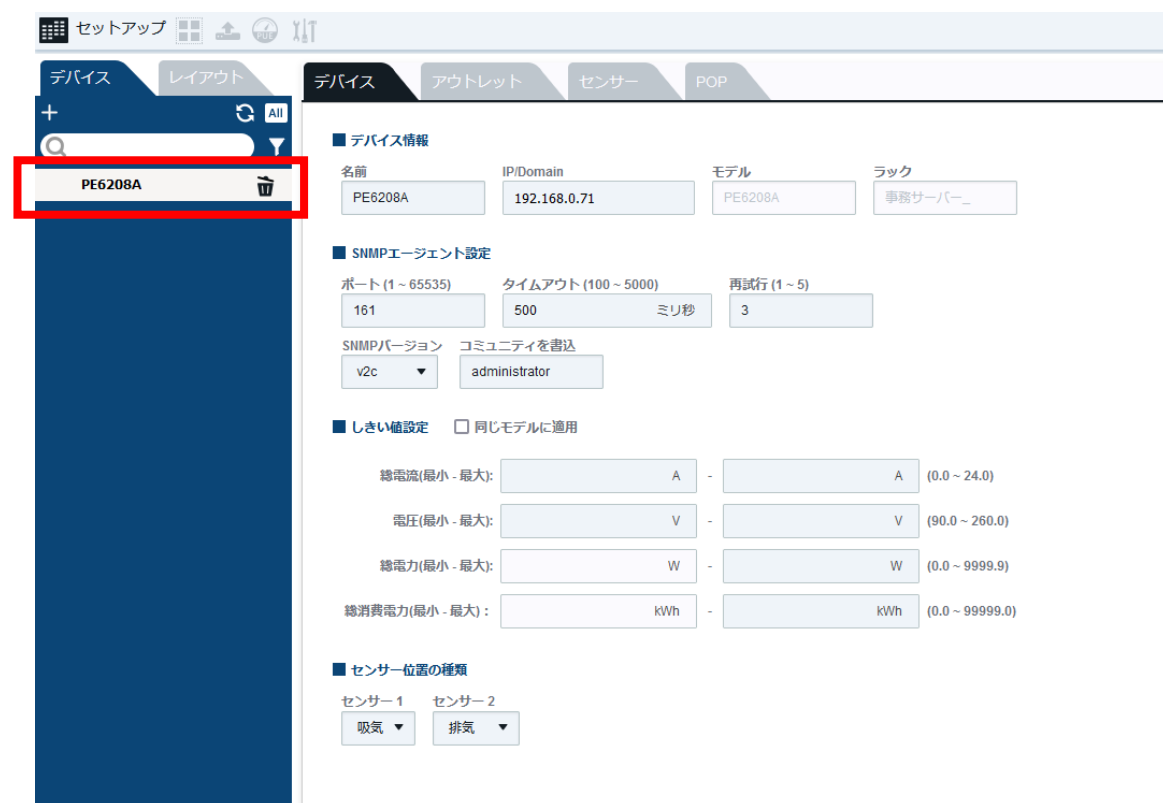
チェックを入れて、「追加」をクリックします。



この時、登録したデバイスが一覧リストでは、「割り当てられていません」と警告が表示されます。これは、PDUが検出されていても、このecoDCで作成した部屋データに登録されていないことを意味します。これは次の「ラックを登録する」の手順で、警告は解除できます。

ただデバイスを登録しただけの状態では、ecoDCから登録したPDUの電源制御はできないためご注意ください。ecoDCから電源制御するにはラック登録が必須となります。

デバイス登録が成功すると、左ペインにあるPDUのリストから任意の型番をクリックすると各製品しきい値の設定などができるようになります。



ここで、PDU本体の設定ができるほか、右上の「webアクセス」をクリックすることで、PDU本体の管理画面にもアクセスできます。

正しく登録ができれば、この時点でデバイス一覧のリストで「オンライン」という表示が変わります。一時的にブラウザのキャッシュによってオフラインのままになっていることがあれば、ブラウザを更新して、オンラインになっているかご確認ください。

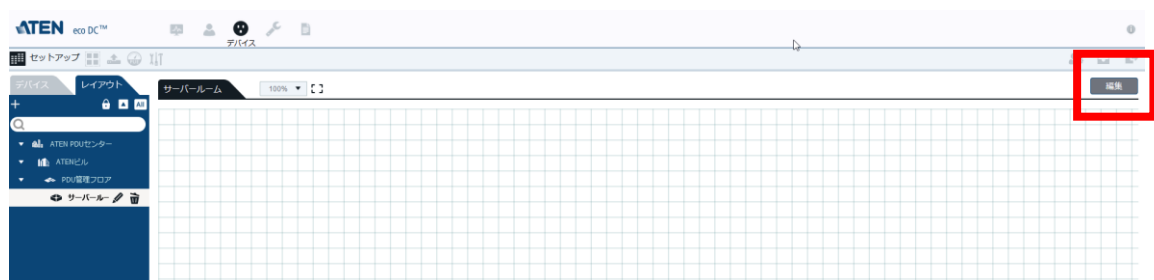
ラックのレイアウトを作成する

デバイスの登録が完了したら、ラックの登録をします。管理画面上タブの「デバイス > セットアップ」を選択し、左ペインの「レイアウト」にある「+」をクリックします。



ecoDC 仕様上、PDU の設置場所の情報登録が必要になるため、「建物」「フロア」「部屋」という順番で設置場所の情報を作成します。プルダウンメニューから「建物」を作成したら、「+」をクリックし次はフロア、更に「部屋」という順番でレイアウトを作成します。

レイアウトタイプ「部屋」まで作成すると、右ペインにグリッドが表示されます。中央ペインの右上端に「編集」をクリックします。

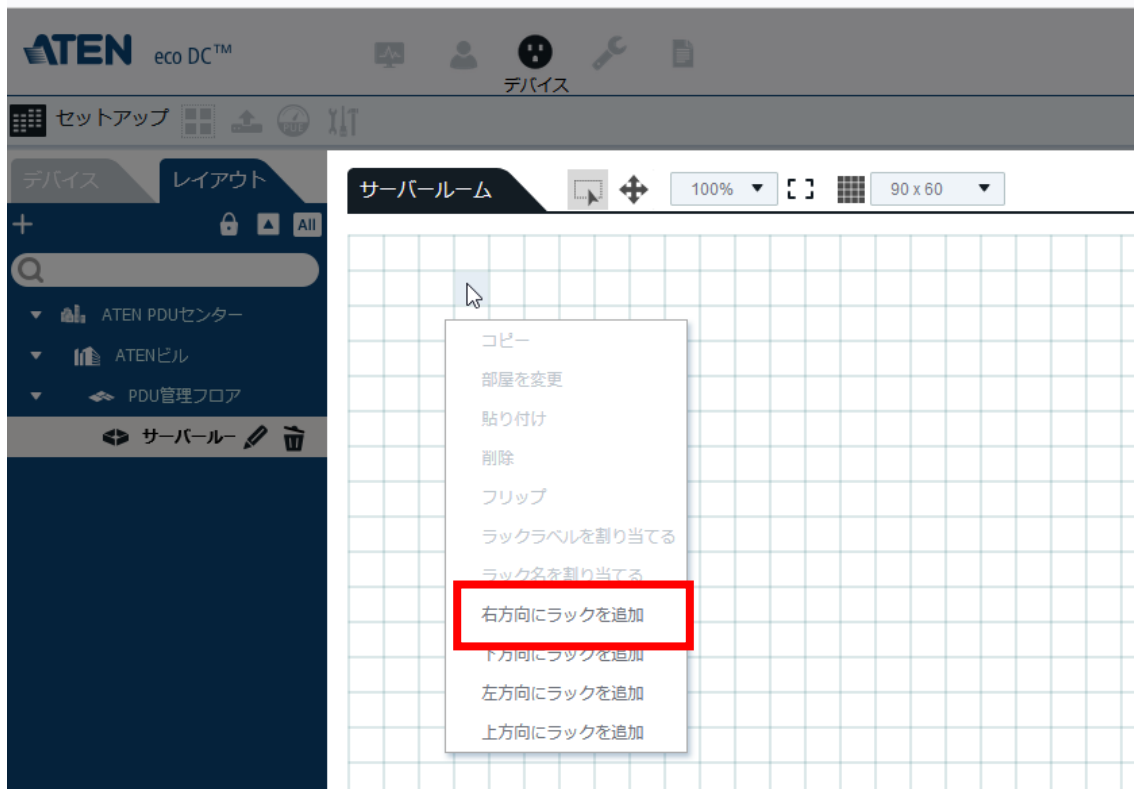


レイアウト内にラックデータを作成する

このグリッドは、天井から見た建物の平面図を模した図※です。そこにラックを配置した PDU を登録します。

※ イメージ図としての用途となるため、実際の平面図を下にレイヤー表示する機能や部屋の構造を示すような図形描画機能は無いのでご注意ください

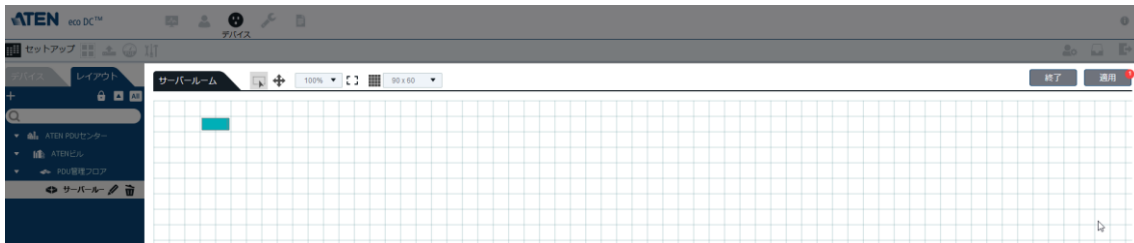
グリッドで任意のドットを右クリックするとメニューが表示されます。ここでは参考として「右方向にラックを追加」を選びます。これは、部屋の中にサーバーラックを配置するようなイメージで長方形のラック図形を配置します。



設置場所でサーバーラックを複数並べている環境であれば、この回数をその台数分自動で並べて配置できます。

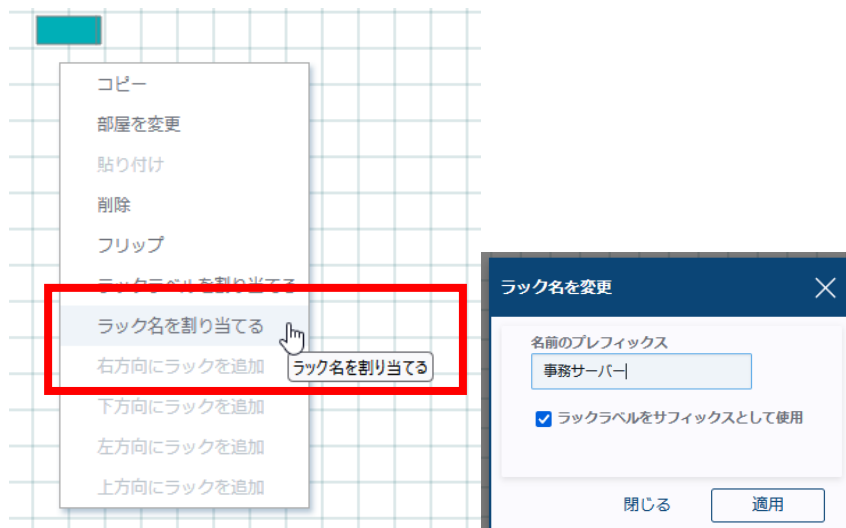
The screenshot shows a dialog box titled '新規ラックを作成' (Create new rack). It has a field for '回数' (Number of times) with the value '1' entered. Below the field are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '適用' (Apply).

下の緑色の長方形が、新規で配置したラックです。選択中のラックは緑色で表示され、選択が解除されると紺色で表示されます。



「縦 1x 横 2」または「縦 2x 横 1」のこのブロックはサーバーラック 1 棹分となります。実際のラックの配置スペースに合わせて、サーバーラックの配置レイアウトを作ります。あくまでも ATEN 製 PDU が設置している場所の情報を分かりやすくするためだけなので、PDU を取り付けていないラックを一この画面内に配置する必要はありません。

ラック図形の作成が終わったら、次はラックの名前を決めます。ラックを右クリックして、「ラック名を割り当てる」を選択します。「名前のプレフィックス」に任意の名前を入力し、「適用」をクリックします。ここでは、例として「事務サーバー」ラックという名前にしました。




これで、レイアウトの準備は完了です。もしも、複数の遠隔地に PDU を配置している場合は、再度「建物」から配置場所を登録します。

登録したラックに PDU と紐づける

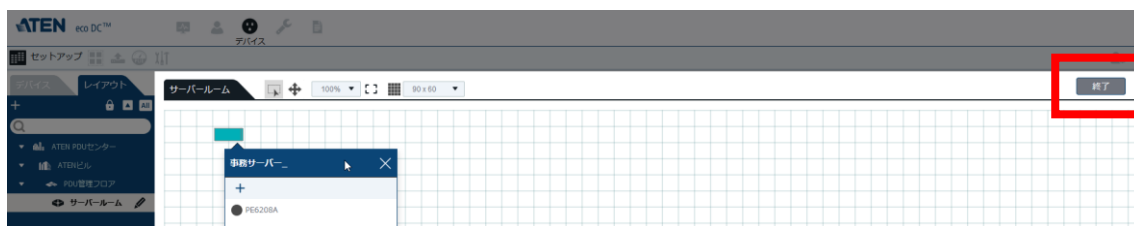
先ほど作成したラックの情報と、PDU を紐づけます。

レイアウトの編集を終了してしまっていたら、再度画面右上にある「編集」をクリックしてサーバーラックの配置レイアウト編集ができるようにします。編集ができるようになったら、先ほど作成した「事務サーバー」のラックをダブルクリックします。

すると吹き出しのような画面が表示されるので、「」をクリックします。すでに PDU が登録されていれば、ここに登録済みのリストが表示されますので、選択し「Add」をクリックします。



複数台の PDU を登録していれば、この配置を繰り返します。すべての PDU の紐づけが完了したら「終了」をクリックします。




この段階で、レイアウト配置した PDU 単体のリモート制御(アウトレットの ON/OFF)ができるようになりました。「エネルギー > 電源制御」から操作できます。



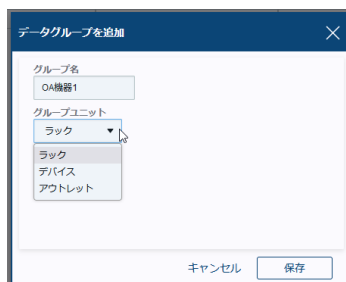
PDU をグループ登録する

これまでは、レイアウトを作成し PDU と紐づけすることで、ecoDC から 1 台単位の PDU のリモート制御ができるようになりました。これから複数台の PDU 一括で操作ができるようにグループを作って、その中に PDU を登録します。

まず、管理画面上タブの「デバイス > データグループ」を選択します。そして左ペインにある「」をクリックします。



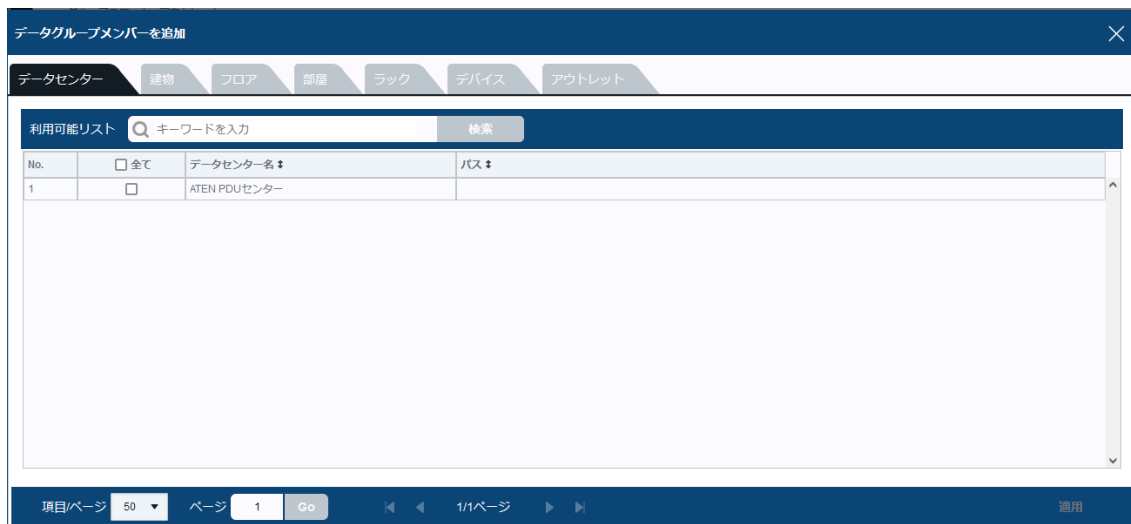
新規でグループを作成します。グループ名は任意の名前を付けます。グループの単位はラック(同じラックに設置している PDU ごと)、デバイス(PDU1 台ごと)、アウトレットごとと設定して「保存」をクリックします。



グループが作成されると、左ペインに追加されます。デバイスを登録するため、右ペインの「追加」をクリックします。

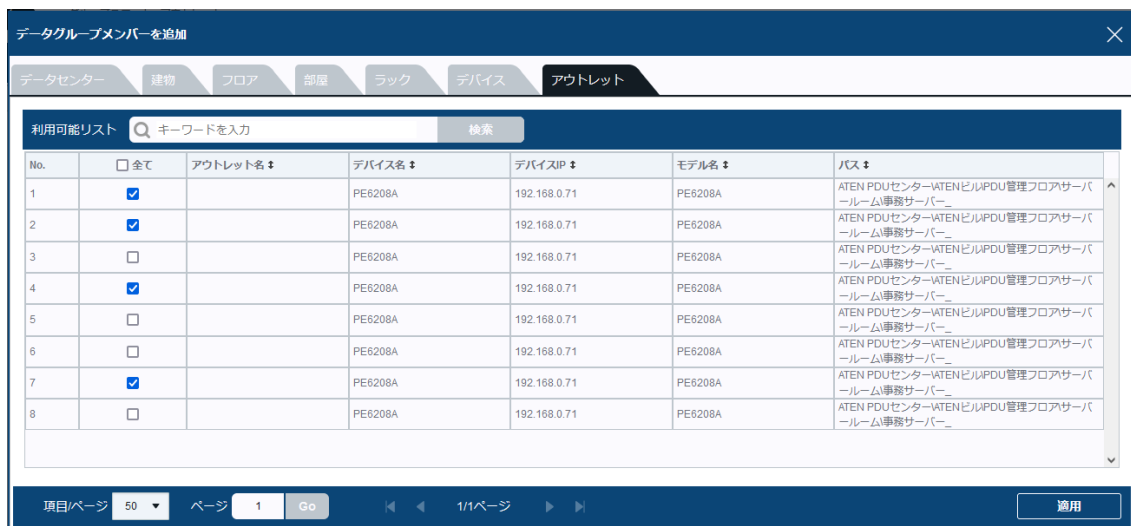


ここでは、グループの対象とする PDU をレイアウト作成した範囲から選べます。そのため、「特定の拠点をグループ A とする」という使い方や「各 PDU のポート 6 だけのグループ」という指定の仕方ができます。グループに入れるデバイスなどをチェックで選択したら「適用」をクリックして、グループメンバーを確定します。



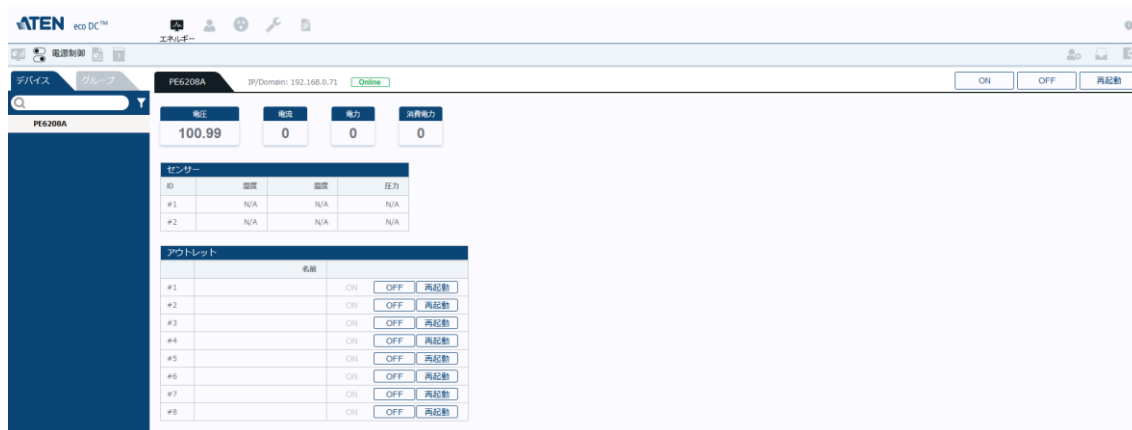
ここでは、例としてアウトレットのグループユニットを作成します。

「アウトレット」タブをクリックして、任意のアウトレットをグループに登録しました。



デバイスをリモートから電源 ON/OFF する


ダッシュボード画面の「電源制御」をクリックするとデバイス登録をし、ラックに登録した PDU が表示されます。デバイス登録だけを行っても、ラックに PDU を登録しなければこの画面に PDU の制御画面が表示されないためご注意ください。

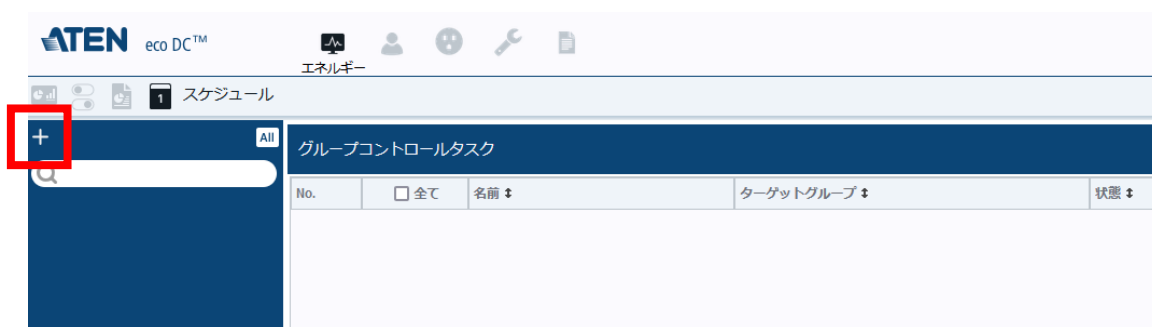


この画面で、各アウトレットの電源 ON/OFF、一括での電源 ON/OFF なら画面右上にある各ボタンで制御できます。複数の PDU をまとめて電源 ON/OFF するにはグループを作成して、制御対象の PDU やアウトレットを指定します。

スケジュール機能を使って指定した時間に電源制御をする

スケジュール機能は、PDU 単体で指定はできず、最低でもグループを一つ登録しておく必要があります。グループに登録されていない PDU はスケジュール機能による制御ができないため、先述の各設定手順をお読みください。

スケジュール機能を使うには、管理画面上タブの「エネルギー > スケジュール」を選択します。そして左ペインにある「」をクリックします。



「グループコントロールタスクを追加」では、任意のタスク名、設定スケジュールの内容、制御するアウトレットなどを「ターゲットグループ」にて選択します。「オンタイム」には、電源 OFF→電源 ON という制御をします。「オフタイム」は電源 ON→電源 OFF という制御をします。

グループコントロールタスクを追加

■ タスク情報

名前

タイプ ターゲットグループ
1回 参照...

■ スケジュールリング

	オンタイム	オフタイム
<input checked="" type="radio"/>	2022-10-17 16:39	<input type="radio"/> オフタイム

キャンセル 保存

ここでの電源の制御は ON/OFF ボタンですが、実際は各 PDU のアウトレットごとに設定に従います。(例・Wake On LAN を設定している場合、電源 ON をクリックすると、PDU からマジックパケットを送信します。AC Back の場合は、電源 ON をクリックすると、PDU から PC にインストールされている Pmonitor に対してシャットダウン命令のパケットを送信します)

これで、毎日/毎週/毎年、という単位で自動的に電源制御ができるようになります。

免責事項

弊社 ATEN ジャパン株式会社より無料で提供されているこの情報は、ATEN ジャパン株式会社より製品を購入したユーザーサポートを目的に公開されています。

当コンテンツについて、できる限り正確に保つように努めていますが、掲載内容の正確性・完全性・信頼性・最新性を保証するものではありません。

また、内容およびご利用様がこの資料を通じて得る情報等について、その正確性、完全性、有用性、最新性、適切性、確実性、動作性等、その内容について何ら法的保証をするものではありません。

理由の如何に関わらず、掲載されている情報の変更および運用の中断・中止によって生じるいかなる損害についても、弊社は責任を負わないものとします。

弊社に故意または重過失がある場合、または他の義務的な法的規定に反している場合を除いて、当資料に掲載されている情報を利用することで発生した紛争や損害やコンテンツに起因してご利用様および第三者に損害が発生したとしても、当社は責任を負わないものとします。